

小三書き①

① みずうみのむこうぎしにあるうつくしいおみやのようすをはしのうえからながめる。

② じゃんけんをつかうと、みじかいじかんでかちまけがきめられる。

③ だいいちにだいずについてがくしゅうし、だいににしらべたことをはっぴょうした。

④ はやくおきてけんりつびょういんにいき、いしゃにはとはなのそうだんをした。

⑤ ごちようめのどうぶつえんで、ぞうがかぜでしにそうになるできごとがあった。

⑥ りようしんから、みどりいろのいれものにはいったじょうとうなもうひつセットをもらった。

小三書き②

① せかいのひととことばをつうじさせるのは、あいてにこころをひらくことがたいせつだ。

② たにんをじぶんじしんのようにしんぱいし、こうふくをねがえるひとはかみさまみたいた。

③ ひなんくんれんで、にげみちをけいしきてきにたどり、いのちをまもるれんしゅうをする。

④ がつきゅういんがちゅうしんとなり、なかにわのごみひろいをながれさぎょうですすめた。

⑤ このぶぶんのぶんしょうをちゅういぶかくよみ、しゅごをさがしなさい。

⑥ おもくてだいなものをもつかかりになりわるいことにたいらなじめんでころんだ。

① つぎからつぎにくるなみは、いつものばいになり、かもめがたくさんあつまった。

② あつくるしいなつによる、ゆめでこおりのまわりをしろくまとじゆうにおよいであそんだ。

③ たのんだしょうひんのかぐがつくよていびをてちようにかきこむ。

④ かなしいときには、あたたかいおゆやあまぎけをのんでころまであたたまる。

⑤ がつきゆうぶんこにしょうわじだいのどうわをもってきてくれたおれいをいう。

⑥ くちぶえをふきながらでんちゆうのよこをあるくひとを、だれかがおっている。

① スキーいたがはんたいにすすんだり、きゆうなさかでころんだりしていちにちがおわった。

② ほうかご、てつぼうからおちて、ゆびからちをだしたともだちをいえまでおくった。

③ ちいさなくすりばこをやっきよくからからいそいでかってきた。

④ ならったかんじ・ぶんのいみやくぎれがただしいかといながら、かんそうぶんをせいりした。

⑤ いっぶんいちびょうをおしみ、しょうかのやくわりのけんきゆうにはげんだ。

⑥ きみは、さらにあるだいこんのかわをおき、まんなかをきりとってください。

小三書き⑤

① ようもうのよう ふくをきいているようなひつじはさむいばしよでもへいきだ。

② にどめにかぞくできようとにいったとき、やどのまえでしゃしんをとった。

③ しまのうさくぶつ・しよくぶつ・どうぶつのおんぜんをまもるため、かくしゃのじよげんをうけた。

④ きよねん、かんこうきやくとして、きゆうしゅうのゆうめいなまつりをみにいった。

⑤ えきのちゅうおうのおみやげやには、このじきにいつもぎょうれつができる。

⑥ むかしながらのりよかんをさがし、じゅうしよとでんわばんごうをしらべてもうしこんだ。

小三書き⑥

- ① やきゅうで、はやくてまがるボールをなげたが、うちかえされ、ためいきをつく。
- ② はたけをみながら、はやみがそだつしくみについて、べんきょうしはじめた。
- ③ どうじょうじんぶつは、みなとでせきたんやあぶらのにはこぶためにまつひとびとだ。
- ④ さむくてくらいふゆはバスのにかいのって、どうろのツリーをながめる。
- ⑤ たいようで、ぎんいろにひかるやまからかんじたことをしにして、だいめいをきめた。